

# 2023年 夏期聖会

「思いを遥かに超えた 神の恵み」

夏期聖会実行委員長  
大分カルバリチャーチ  
長老牧師 橋本 守

今まで担当してきた夏期聖会で、これほど困難を感じた聖会はありませんでした。

しかし終えて見れば、講師の安食先生のメッセージは、「備えよ、主の花嫁（アフターコロナのクリスチャンビジョン）」のテーマに相応しいとても素晴らしいものでした。

音響関係も、主が素晴らしい助け手をおこしてくださいました。コロナ感染者のキャンセルもあり、台風の影響や、移動中の車の故障など、大変な困難を感じたものの、



講師：安食弘幸 師

「祈りの火を いただきました」

ひばりが丘パイプチャーチ  
國仲 留美

今回は、昨年転職した職場の環境が安定せず、心に虚しさが増していた時に、神様の導きによって、夏期聖会に参加できたことを心から感謝します。

安食先生のメッセージは、ソフトな語り口調なのに、私の魂は激しく揺さぶられ、何度も励まされ、火がつかまりました。特に印象に残っているのは、聖会3の「初代教会から学ぼう」です。私は、何か問題が起こると、祈る前から諦めてしまったりして、祈ったとしても途中で止めていました。祈りは呼吸と同じなのに、自ら酸欠状態にし



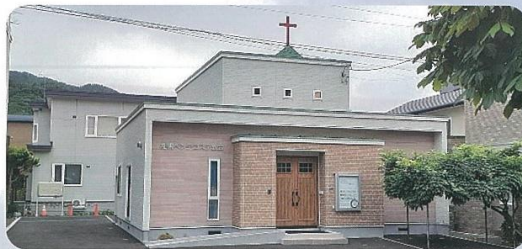
ていた事に気がつきました。「祈った日に、すでに祈りは聞かれていた」という力強いメッセージを心に刻んで、毎日、喜び・祈り・感謝を忘れずに、丁寧に生活していこうと思えました。

また、日本各地から集まった神の家族との愛のある交わりに、大変恵まれました。それぞれの教会の祈りが、日本のリバイバルにつながっていくと強く信じます！

復活されたイエス様の奇跡を体験していきたいです。



新会堂建設地「起工式」



新会堂全景



開拓時1954年頃 貫田師真ん中、矢巻師前列左5人目

一九七六年九月、私矢巻が三代目の後任として遣わされました。当時、私は聖書学院を卒業したばかりの三十歳で、苦小牧で開拓伝道の働きをしていた深倉綱子師と前年九月に結婚したばかりでした。私が救われた教会の後任牧師にすることは思いもよらぬことでした。

私が伝道活動と同時に教会の修理をすることも重要な務めでもありました。修理の他にもトイレの洋式化、正面サイディング張り、絨毯の張替え等々のリフォームを私自身で行えるほどに腕前が上がりました。妻もほめ上手でしたのでますます上達しました。修理、リフォームで見た目は良くても、建物の構造体はそのままでしたので、新会堂建設は長年の切実な願いでした。

今から三〇数年前、新会堂建設に向けて教会

「神のなされることは皆その時にかんたて美し」（伝道の書三：十二）

天使が教会の柱を支えてくださっていると言われるほどに老朽化した旧会堂は、二〇二二年八月二十八日の礼拝を最後に解体されました。開拓時代から七〇年間、毎週礼拝が捧げられ、福音が伝えられてきたこと、主の祝福と恵みに感謝しました。十月二日教会堂起工式が行われ、十二月は教会員と共に「手形式」で楽しみました。今年三月十八日に新会堂の引き渡しが行われ、四月二日には新会堂で入堂式礼拝を持ち、次週九日はイースター礼拝と共に献堂式を迎えました。献堂式では建設設計の日本ハウスの関係者の方々へ感謝状贈呈、教団内外よりの祝電とレタックス、お祝いのお花等、献堂式を盛り上げていただき、私たち教会員も大いに励まされました。新会堂完成へと導いてくださった主イエス様に感謝します。

会堂建設費用は、教会内準備金三六〇〇万円から踏み出し、銀行借入金や教会債等無しで、総額四千二百万円余で新会堂が完成し、支払も完済できたことは主の奇跡としか思えません。お捧げくださった諸教会、諸先生、全ての方々の愛に心から感謝を申し上げます。

五月には「教団春の事務総会」が献堂式を終えたばかりの新会堂、札幌で開催され、全国各地より牧師先生が集われ、事務総会、礼拝等で共に感謝と賛美で主を崇めました。沢山のお祝いのお言葉を頂き、主と皆様に感謝します。更に私たちは祈りつつ聖霊に満たされ導かれて、主と共に前進したいと願っています。

札幌ペンテコステ教会新会堂建設の歩みは宣教師のお働きを抜きにしては考えられません。一九五二年二月に貫田順師と妻よしえ師夫妻の札幌開拓伝道が始まります。貫田師は日系二世の米国人で、日本に対して宣教のビジョンが与えられ、「日本の札幌」と示され来日後、札幌の地で宣教活動を開始されました。その後、札幌の地により、当時六歳の私を含め、矢巻家族七人全員が洗礼を受けクリスチャンになりました。

貫田師ご夫妻は札幌での伝道の初期に二人の娘さんを授かりましたが、よしえ師は次女を出産後に持病の悪化により召されました。よしえ師は一粒の麦となり、札幌郊外にある教会所有の墓地キリスト教納骨堂に遺骨は納められ、毎年記念集会をもっています。貫田師は宗教学人設立登記後一九六四年に米国に帰国されました。

その後、今誓二師が後任牧師として約十四年間教会伝道をされ、その後南米パラグアイで宣教活動を始められました。現在は仙台在住です。



牧師 矢巻邦彦 絹子

## 『新会堂建設へ主の奇跡と軌跡』

札幌ペンテコステ教会 牧師 矢巻邦彦

でバザーを開催し、売上で会堂建設積立金を始めました。

二〇一二年には、困難と思われた教会の名義問題は裁判に至りましたが、国内外の多くの方々の協力とお祈りによって解決いたしました。

それ以降は週報の祈りの課題に「新会堂建設」を掲載し、二〇二二年十月には「新会堂建設委員会」を立ち上げました。そして宣教七〇周年を迎えた二〇二二年、ついに新会堂建設の道が開けたのです。神様は私たちの祈りに応え、主の時に会堂建設に導いてくださったのです。



教団事務総会 教役者の先生 2023年5月10日 新会堂正面



思い出の旧会堂



献堂式&イースター礼拝 2023年4月9日



会堂建設中「手形式」柱に各自手形を捺す 2022年12月11日